

## 家庭・地域・社会教育

近年、人口減少、少子高齢化といった社会背景の中、世代間・地域間交流が希薄となっている。こうした中、「知縁」という言葉で表される「知識でつながる環」を求める機運が広がりつつある。家庭・学校園・地域が「横」のネットワークを広げ、絆を深めながら、個々人の多様な学習・活動の成果を循環させる「縦」の仕組みを構築し、そのネットワークの中に還元されるような、互助・共助による活力あるコミュニティ形成が必要である。そのためには、市民との連携を図り、そのニーズに応じたコーディネート機能や情報提供等の支援を通じ、地域において‘ひとづくり’から‘まちづくり’につながるような活動を推進していくことが求められる。

そこで平成26年度は、市民ニーズに応じた学習機会の提供、学習活動を支援するとともに、地域人材の育成による地域の教育力の向上に取り組む。また、家庭・学校園・地域の結びつきを重視し、世代を超えた自発的な学習・活動機会の提供や地域活動の活性化や市民の生きがいづくり、体力向上、健康増進、青少年の健全育成等に資する様々な事業を着実に推進していく。

### 1 自発的な学習を支援する社会教育環境の整備

多種多様な学習・活動機会の充実がさらに求められている中、市民が自発的に学習や活動に取り組むことで、生きがいを見だし、心の豊かさを培い、自己実現を図ることができる。こうした自発的な学習や活動によって得られた知識・技術・経験を様々な形で地域活動等に活かすことによって、人と人との絆が生まれ、家庭や地域、社会でのコミュニケーションの向上につながっていく。市民の誰もが気軽に自発的で主体的な学習や活動ができるように学習・活動の環境の整備・充実に取り組んでいくため、ホームページ等を活用した関連情報の提供や各種ボランティアの養成講座、社会性・教養を深めるための講座等の充実を図る。そのため各社会教育施設においては、多世代に利用される施設として、文化・芸術施設や大学、地域等との幅広い連携により効率的・効果的な事業を展開していく。

公民館では、市民の参画と協働を目的に設置された公民館事業推進委員会と連携し、社会の要請に応じた多様で魅力的な学習機会を提供するとともに、幅広い年代層を対象とした事業を実施する。また、市民が主体的に学習や活動を行える環境づくりや、公民館グループの学習成果を活かした事業を実施する等、学習・活動で得た知識や技能等を地域社会に還元できる仕組みづくりに引き続き取り組む。

図書館では、本館「ことば蔵」を中心に、ことばと読書を大切にする教育の一翼を担う取組を進める。「ことば蔵」においては、快適な読書・学習環境の提供、適切な蔵書構成等、図書館機能を強化するとともに、〈学ぶ・つながる・まじわる〉

交流事業や、伊丹の歴史文化の情報発信を積極的に行う。また、市内図書館ネットワークを活かし、「伊丹市子ども読書活動推進計画」を進め、市民の読書活動の推進を図る。

博物館では、地域と連携した調査・研究事業を一層進め、その成果を諸展示等の機会に公開するほか、『新・伊丹市史』編纂に向けて行ってきた歴史資料の整理を行い、『伊丹市立博物館史料集』及び『地域研究いたみ』を刊行する。また、市民の要望に応えた出前講座を数多く実施する等、今まで以上に「地域に出かける博物館」を目指す。

生涯学習センター・北部学習センターでは、指定管理者制度のメリットを活かしながら、地域の生涯学習拠点としての事業を展開していく。また、図書館分館事業については、本館との連携を強化し、市民の読書活動の推進に取り組む。

## 2 文化財の保存・継承と活用

市内に数多く所在する指定文化財を文化財保護法に則って適切に保存するとともに、市内文化財保護団体と協働して、文化財の保存・継承事業を推進する。

「歴史・文化が醸し出す伊丹ロマン事業」は、本年8年目を迎える。当事業を通してさらに文化財愛護の啓発、歴史理解を深めるため、オープニングイベントや展示・講演会・史跡めぐり等を実施する。NHK大河ドラマ「軍師官兵衛」にちなみ、黒田官兵衛と有岡城・荒木村重の関わりを紹介する講座等を引き続き開催するとともに、講座等で得た知識を社会還元できるガイドボランティアの育成に力を入れる。また国史跡有岡城跡や発掘調査の成果を全国的に周知するため、民間情報媒体へのPRを積極的に行う。

伊丹市文化財ボランティアの会や伊丹市文化財愛護少年団等の市内文化財保護関係団体の活動支援や、史跡等の適切な管理を継続して取り組むほか、市内遺跡での発掘調査の実施や、伊丹市埋蔵文化財口酒井整理事務所等に保管されている埋蔵文化財の活用等を行う。

## 3 生涯スポーツの推進

生涯スポーツの推進は、市民の体力向上と健康増進を目指すとともに、スポーツを通じた世代間・地域間交流を図り“明るくいきいきした地域づくり”を目的とするものである。このため「新伊丹市生涯スポーツ振興基本計画」（平成19年度策定）に沿った事業を継続して行う。平成25年度は、健康な市民が増加することにより、まち全体が元気で活気溢れ、明るいまちづくりに寄与することを目的とし、「健康づくり大作戦」の一環として「サタデージョギング教室」を開始した。今後は、スポーツクラブ21等の地域スポーツ活動支援等、だれもがスポーツに触れることができる環境づくりを市民とともに進め、公益財団法人伊丹スポーツセンター、市内スポーツ施設等の指定管理者等と連携を図り施設の運営を行っていく。施設の老朽化に伴う修繕を実施し、市民が安全に利用できるよう

施設の整備・充実を図る。

また、伊丹の特色を活かしたスポーツ事業として、伊丹生まれの「いたっボール」や伊丹にゆかりのある競技「なぎなた」を普及し、本市の特色を全国にアピールする。

#### **4 家庭・学校園・地域等の協働による教育の推進**

心豊かな青少年を育成するには、家庭・学校園・地域等がしっかりとつながり、協働して取り組むことが大切である。家庭教育の自主性を尊重しつつ、家庭教育の教育力の向上はもとより、地域ぐるみで家庭教育を支援する体制を整備し、地域全体の教育力の向上を目指す。

また、青少年の健全育成に向け、少年愛護センターをはじめ、市民・関係機関・団体等との連携の下、夜間特別補導等、街頭補導活動を推進するとともに、地域の子どもは地域で守り育てるという観点に立ち、地域ぐるみで「愛の一声運動」による非行防止、被害防止等に取り組む。あわせて青少年の育成について市民の関心と意識を高めるための広報・啓発活動の充実や、「白ポスト運動」による有害図書類の回収等、青少年を取り巻く環境の浄化を図る。

P T Aと地域が協働するP T C A活動は、子どもの学力向上策として家庭・地域での学習環境整備、あいさつ運動や安全パトロールの実施、さらに地域行事への参加促進を通じ、家庭・学校園・地域の連携を強化していく。

#### **5 今日的課題に対応した家庭・地域・社会教育の推進**

社会環境の変化に伴う世代間・地域間交流の希薄等、今日的課題に対応していくためには、単に個人的な趣味・教養を充足させるだけではなく、各自が生涯にわたって学んだ力を地域課題の解決につなげ、まちづくりに活かされることが必要である。

そのために、人と人、人と地域を結ぶコーディネート機能を強化し、社会教育施設の持つノウハウや知識・技能の修得ができる環境の整備を進めていく。

平成25年10月、「伊丹市社会教育委員の会」より出された提言のテーマに「社会教育が地域・学校・家庭をつなぐ」とあり、「子どもの『育ち』を支える環境づくりには、子どもの地域社会への参加・参画が重要」とされている。社会教育施設等のイベント参加等を通じ、子どもが主体的に企画・活動していくような仕掛けづくりが大切である。また、家庭・学校・地域の連携による教育活動推進事業として、学校の教育活動を地域ボランティアが支援する「学校支援地域本部事業」について、学校図書・環境・学習支援等の活動内容の周知・充実をさらに図るとともに、地域の豊かな社会資源・地域人材を活用した土曜学習を全小中学校で実施する。

## 6 家庭・地域・社会教育における人権教育の推進

すべての人の人権が尊重される「多様性を認め合う共生社会」の実現を目指して、人権に関する学びを生涯学習に位置づけ、それぞれのライフステージに応じた多様な学習活動を家庭・地域・社会教育等のあらゆる場において推進する。その際、人権を知識として学ぶだけでなく、日常生活においても自他を尊重する意識が、態度や行動となって現れるようになることが大切である。そのため、「伊丹市人権教育・啓発推進に関する基本方針」（平成22年度策定）や「伊丹市人権教育基本方針」（平成22年度改訂）に基づき、年次報告書である「伊丹市人権教育・啓発白書」を活用する等して、様々な人権課題に関する学習機会の充実を図る。

家庭では、保護者と子どもがともに参加し学びあうことができるような人権啓発講座（ハートフルコンサート）の開催や視聴覚教材の貸出、児童生徒から人権作文・ポスターの募集等を行い、家庭の人権教育の推進を図る。また、地域では、市民が日常生活の学習活動や地域活動を通じて、様々な人権問題等について理解を深め実践する場であるとの認識の下、各小学校ブロックに人権教育啓発推進委員を委嘱したり、人権教育指導員を派遣する等してライフステージに応じた学習機会を充実する。さらに、職場等では、一人ひとりが啓発者であるという認識に立ち、人権問題に対する正しい理解と認識を高めるよう支援する。